サンプリング周波数192kHzに対応
S/PDIF信号の受信機能と送信機能を
1チップにまとめた

WM8805_G

WM8805(Wolfson社)使用 DAIトランシーバ実験基板

DAI Transceiver Board for Experiment

オーディオ実験キット

メカトロ＆エレクトロパーツ
Digit デジット
〒556-0005大阪市浪速区日本橋4-6-7
TEL(06)6644-4555 FAX(06)6644-1744
定休日: なし(お盆、年末年始を除く)
営業時間：AM10:00～PM8:00

概要

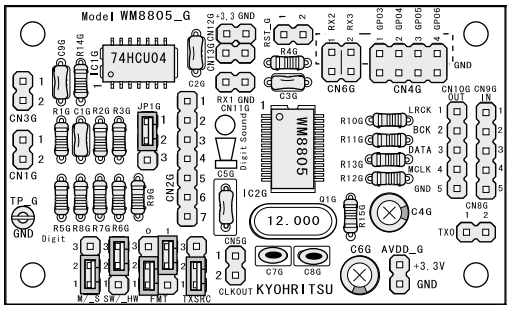
WM8805_G DAIトランシーバ実験基板は、S/PDIF信号(同軸入力またはデジタル入力)を受信してオーディオシリアル信号を出力するDAI(デジタルオーディオインターフェイス)レシーバ機能と、オーディオシリアル信号を入力してS/PDIF信号(デジタル出力)を出力するDAIトランスミッタ機能を1チップにまとめた、DAIトランシーバの試作・実験用基板です。

DAIトランシーバICには、Wolfson社のWM8805を使っています。

WM8805の詳細については、データシートに載っていますので、必ず入手してお読みください。

各種製作例については、応用篇の説明書を見てください。

WM8805_G基板



基板の大きさ(約)：66×39mm

WM8805の詳細については、データシートを必ずお読みください。

応用例については応用篇の説明書を見てください。

主な仕様

◎ 使用IC：WM8805(Wolfson社 DAIトランシーバ)、74HCU04
◎ 対応サンプリング周波数：32kHz～192kHz
◎ 動作設定：ハードウェアモード(ジャンパ設定)、ソフトウェアモード
◎ 対応フォーマット：16ビットI2S、24ビットI2S、24ビット左寄せ(LJ)、16ビット右寄せ(RJ)
◎ 電源電圧：3.3V(デジタル部、アナログ部とも)
◎ 基板寸法(約)：66×39mm
◎ M3ねじで取り付け可能

目次

概要 ―― 1
主な仕様と特徴 ―― 1
部品表 ―― 2
組み立て方 ―― 2
設定と接続のしかた
　ハードウェアモード ―― 5
　ソフトウェアモード ―― 7
コネクタのピンアサイン ―― 8
ジャンパ設定表 ―― 9
応用例ブロックダイヤグラム ―― 10
回路図 ―― 11

WM8805_G DAIトランシーバ基板の主な特徴

◎ DAI(デジタルオーディオインターフェイス)レシーバの機能とDAIトランスミッタの機能を1チップにまとめた、DAIトランシーバIC、WM8805の試作実験用単独基板の組み立てキットです。
◎ 動作設定はハードウェアモード(ジャンパ設定)、ソフトウェアモード(マイコン制御)によりおこないます。ハードウェアモードでも基本的な設定で動作しますが、ソフトウェアモードで使うと高度な設定も可能です。
◎ 基板上に、同軸レベルのS/PDIF入力信号用のアンプ回路を搭載しています。
◎ 3.3V単一電源で動作します。
◎ フラットパッケージのICはあらかじめはんだ付けされていますので、はじめての方でもやさしく組み立てられます。

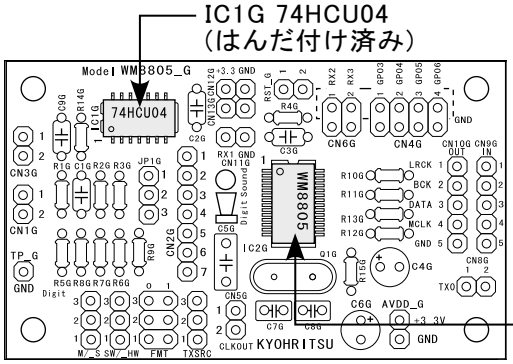
部品表　※予告なく変更することがあります。

	シルク印刷の番号	品名/型番		シルク印刷の番号	品名/型番
1	WM8805_G	WM8805_G 基板	26	C8G	セラミックコンデンサ(NP0) 50V 15pF
2	IC1G	74HCU04(フラット)	27	C9G	積層セラミックコンデンサ 50V 0.1μF(104)
3	IC2G	WM8805	28	Q1G	水晶発振子(HC49USタイプ) 12MHz
4	R1G	1/4W 小型金属皮膜抵抗 75Ω(紫緑黒金茶)	29	Q1G用	水晶用絶縁シート
5	R2G	1/4W 小型金属皮膜抵抗 47kΩ(黄紫黒赤茶)	30	CN1G	ヘッダピン 1列 2ピン
6	R3G	1/4W 小型金属皮膜抵抗 10kΩ(茶黒黒赤茶)	31	CN2G	ヘッダピン 1列 7ピン
7	R4G	1/4W 小型金属皮膜抵抗 10kΩ(茶黒黒赤茶)	32	CN3G	ヘッダピン 1列 2ピン
8	R5G	1/4W 小型金属皮膜抵抗 10kΩ(茶黒黒赤茶)	33	CN4G	ヘッダピン 2列 8ピン
9	R6G	1/4W 小型金属皮膜抵抗 10kΩ(茶黒黒赤茶)	34	CN5G	ヘッダピン 1列 2ピン
10	R7G	1/4W 小型金属皮膜抵抗 10kΩ(茶黒黒赤茶)	35	CN6G	ヘッダピン 2列 4ピン
11	R8G	1/4W 小型金属皮膜抵抗 10kΩ(茶黒黒赤茶)	36	CN8G	ヘッダピン 1列 2ピン
12	R9G	1/4W 小型金属皮膜抵抗 10kΩ(茶黒黒赤茶)	37	CN9G	ヘッダピン 1列 5ピン
13	R10G	1/4W 小型金属皮膜抵抗 33Ω(橙橙黒金茶)	38	CN10G	ヘッダピン 1列 5ピン
14	R11G	1/4W 小型金属皮膜抵抗 33Ω(橙橙黒金茶)	39	CN11G	ヘッダピン 1列 2ピン
15	R12G	1/4W 小型金属皮膜抵抗 33Ω(橙橙黒金茶)	40	CN12G	ヘッダピン 1列 2ピン
16	R13G	1/4W 小型金属皮膜抵抗 33Ω(橙橙黒金茶)	41	CN13G	ヘッダピン 1列 2ピン
17	R14G	1/4W 小型金属皮膜抵抗 10kΩ(茶黒黒赤茶)	42	AVDD_G	ヘッダピン 1列 2ピン
18	R15G	1/4W 小型金属皮膜抵抗 33Ω(橙橙黒金茶)	43	RST_G	ヘッダピン 1列 2ピン
19	C1G	積層セラミックコンデンサ 50V 0.1μF(104)	44	JP1G	ヘッダピン 1列 3ピン
20	C2G	積層セラミックコンデンサ 50V 0.1μF(104)	45	M/_S	ヘッダピン 1列 3ピン
21	C3G	積層セラミックコンデンサ 50V 0.1μF(104)	46	SW/_HW	ヘッダピン 1列 3ピン
22	C4G	オーディオ用電解コンデンサ(FW相当品) 50V 10μF	47	FMT	ヘッダピン 2列 6ピン
23	C5G	積層セラミックコンデンサ(NTD相当品) 50V 1μF(105)	48	TXSRC	ヘッダピン 1列 3ピン
24	C6G	オーディオ用電解コンデンサ(FW相当品) 50V 10μF	49	TP_G	基板用チェックピン
25	C7G	セラミックコンデンサ(NP0) 50V 15pF	50		ショートピン(2.54mm) 6個

組み立て方

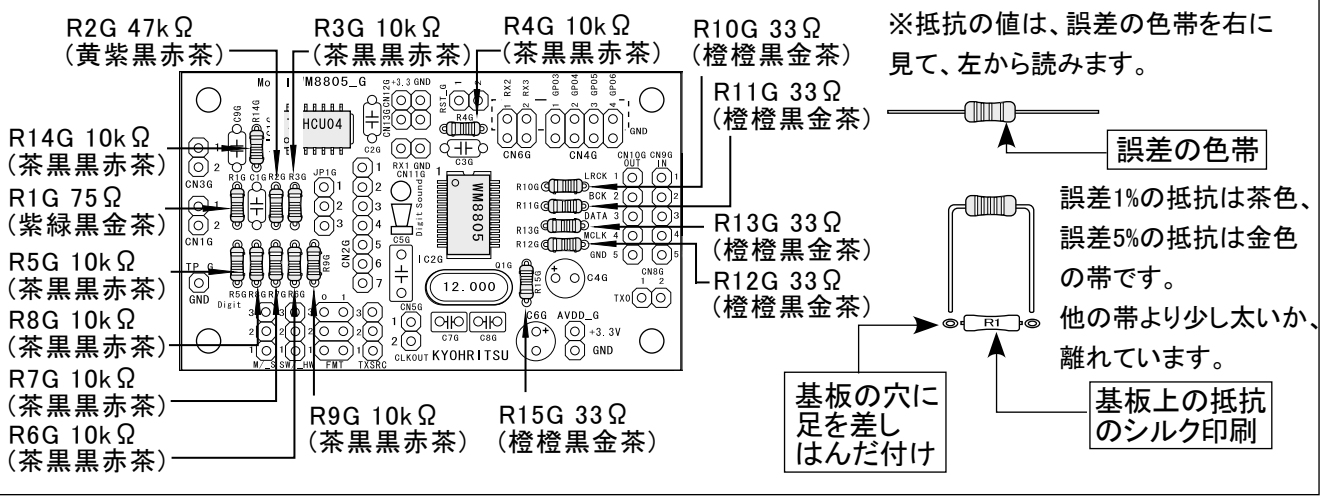
ICははんだ付け済みです

(1) フラットパッケージのIC(WM8805と74HCU04)は、基板にあらかじめはんだ付けされています。



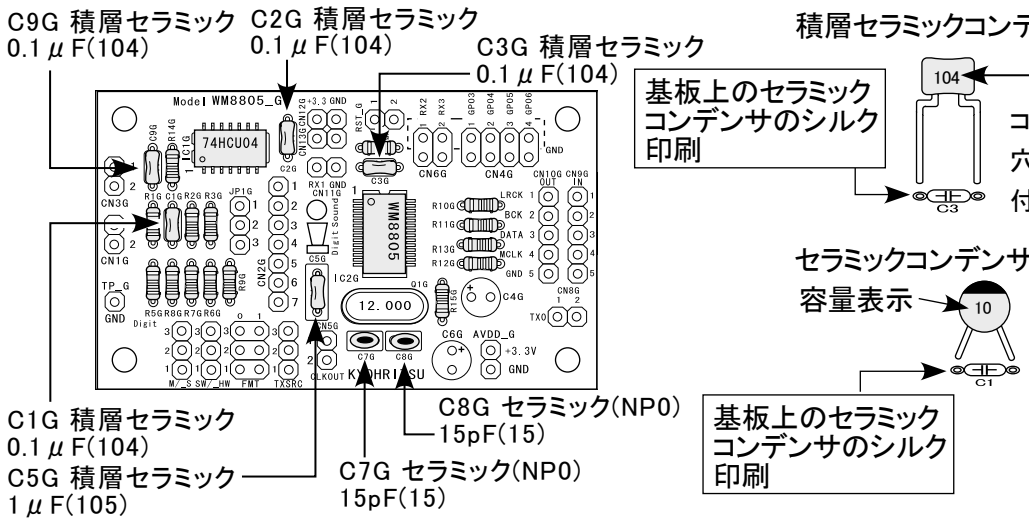
融けたはんだを基板に落とさないよう、気をつけて組み立ててください。
WM8805_G基板を表面(ICがはんだ付けされている面)から見てください。白いシルク印刷で、部品の図と部品番号が印刷されています。
このシルク印刷を目印に、部品をはんだ付けします。

(2) 抵抗のはんだ付け(どちら向きに取り付けてもかまいません)
WM8805_G基板の抵抗のシルク印刷のところに、抵抗を差してはんだ付けします。抵抗はどちら向きに取り付けてもかまいませんが、向きを揃えておくと、あとでチェックしやすいです。



(3) セラミックコンデンサのはんだ付け(どちら向きに取り付けてもかまいません)

WM8805_G基板のセラミックコンデンサのシルク印刷のところに、セラミックコンデンサをはんだ付けします。セラミックコンデンサは、どちら向きに取り付けてもかまいません。



積層セラミックコンデンサ

容量表示

基板上のセラミックコンデンサのシルク印刷

コンデンサの足を基板の穴に差し込んではんだ付けしてください。

セラミックコンデンサ(NP0)

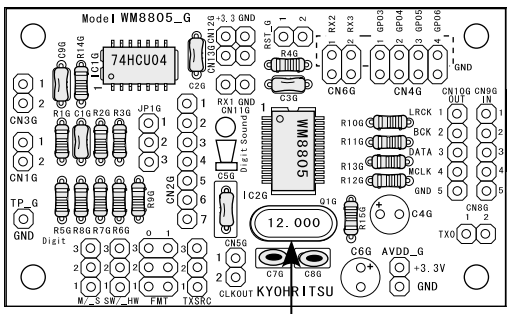
容量表示

基板上のセラミックコンデンサのシルク印刷

頭の黒いペイントが大きいものと小さいものがありますが、同じものです。

水晶発振子は絶縁シートを使って取り付けてください。

(4)水晶発振子のはんだ付け(付属の絶縁シートを使います)

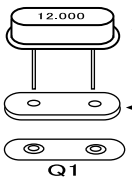


Q1G 水晶発振子(12MHz)
※絶縁シートを足に通してから基板に差します。

WM8805_G基板の水晶発振子のシルク印刷のところに、水晶発振子(12MHz)をはんだ付けします。

水晶発振子を基板にはんだ付けするときは、水晶発振子の足に絶縁シートを通してから、基板に差してはんだ付けしてください。

基板上の水晶発振子のシルク印刷



水晶発振子(12MHz)

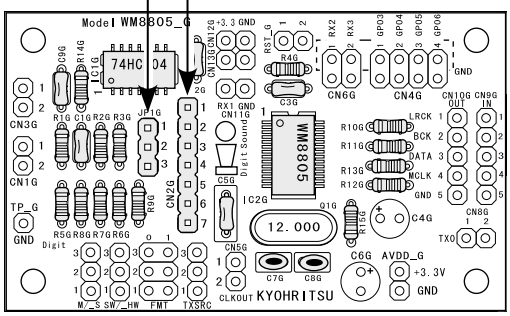
水晶用絶縁シートに足を通してから取り付けます

ヘッダピンは足の短いほうを基板に差してください。

(5) ヘッダピンのはんだ付け(1)

JP1G
1列3ピン

CN2G
1列7ピン

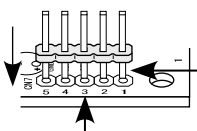


※残りのヘッダピンは後ではんだ付けします。

WM8805_G基板のヘッダピンのシルク印刷のところに、ヘッダピンをはんだ付けします。

ヘッダピンは足の短いほうを基板に差してはんだ付けしてください。

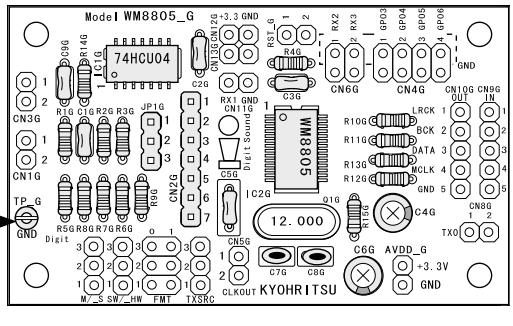
ヘッダピンの取り付けかた



ヘッダピンのシルク印刷

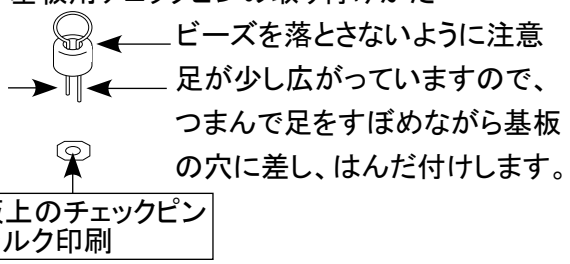
ヘッダピンの足の短いほうを基板に差してはんだ付けしてください。

(6) 基板用チェックピンのはんだ付け



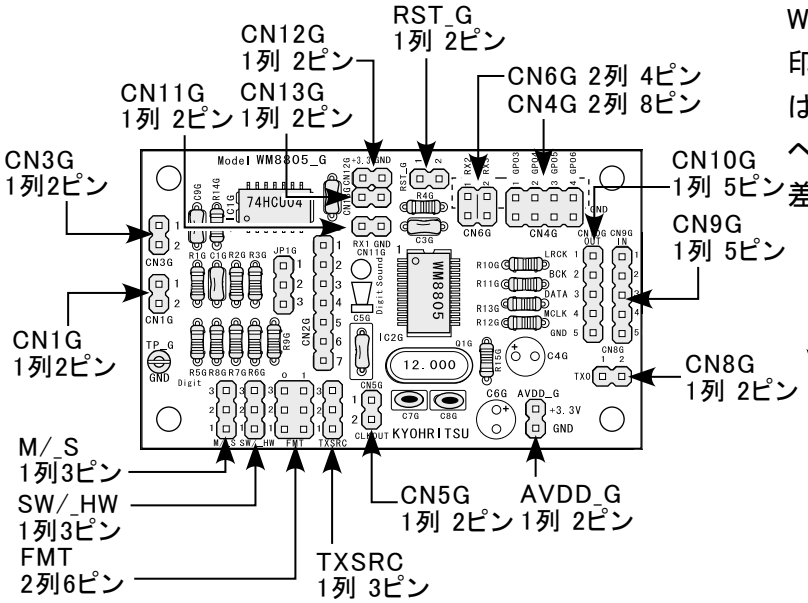
基板のチェックピンのシルク印刷(TP_G)に、基板用チェックピンを差してはんだ付けします。

基板用チェックピンの取り付けかた



(7) ヘッダピンのはんだ付け(2)

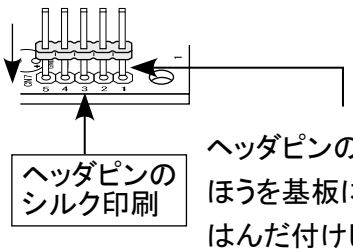
ヘッダピンは足の短いほうを基板に差してください。



WM8805_G基板のヘッダピンのシルク印刷のところに、残りのヘッダピンをはんだ付けします。

ヘッダピンは足の短いほうを基板に差してはんだ付けしてください。

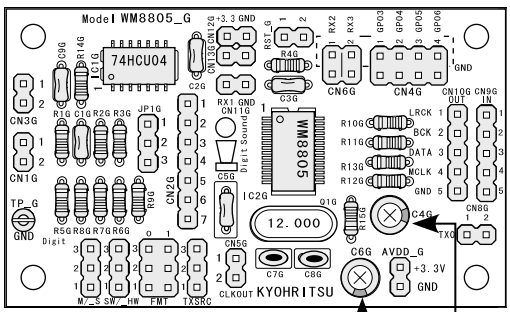
ヘッダピンの取り付けかた



ヘッダピンの足の短いほうを基板に差してはんだ付けしてください。

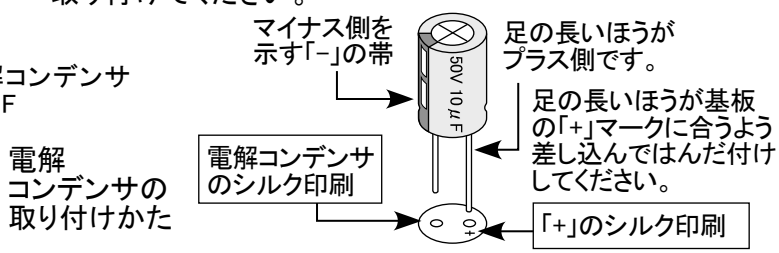
(8) 電解コンデンサのはんだ付け(プラスマイナスの極性があります)

電解コンデンサの極性に注意してください。



基板の電解コンデンサのシルク印刷のところに、電解コンデンサを差し込んではんだ付けします。

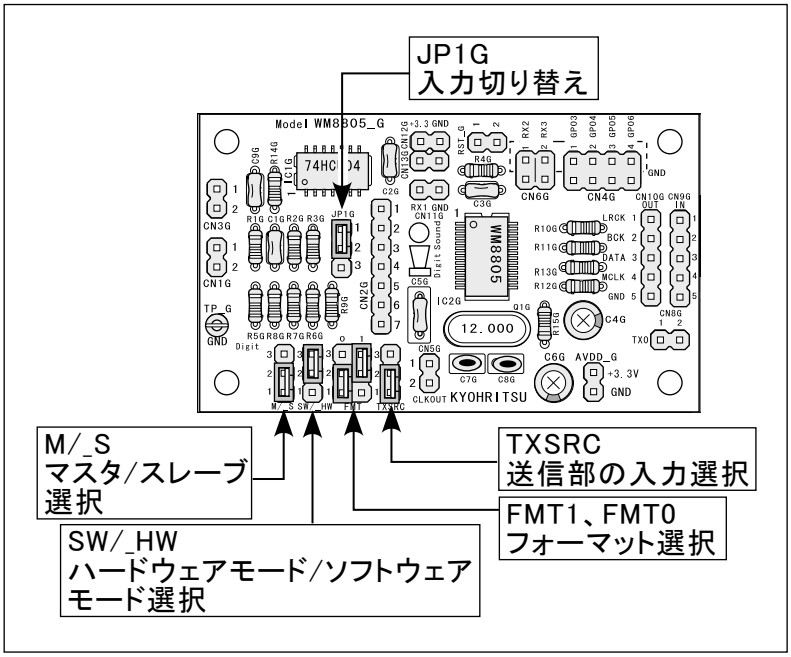
電解コンデンサにはプラスマイナスの極性があります。足の長いほうがプラス側です。基板のシルク印刷の「+」マークとコンデンサのプラス側(足の長いほう)を合わせて取り付けてください。



(9) 組み立てが終わりましたら、部品の取り付けに間違いはないか、はんだの不良やつけ忘れはないか、目視でチェックしてください。

設定と接続のしかた

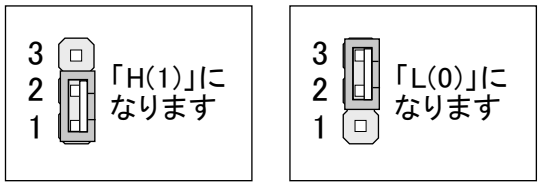
1. ハードウェアモードのとき



WM8805_G DAIトランシーバ基板を
ハードウェアモードで使う場合の、設定箇所
は左図の場所にあります。

※入力切り替えジャンパ(JP1G)以外の設定ジャンパを変更した場合は、電源を入れなおすか、リセットをかけて設定を反映させてください。

WM8805_G基板上の動作設定用ジャンパは、1-2間にショートピンを差したとき「H(1)」に、2-3間にショートピンを差したとき「L(0)」になります。



(1) 入力の切り替え(JP1G)

入力選択	設定	入力コネクタ
同軸入力(アンプ内蔵)	1-2間をショート	CN1G
光入力などのデジタル入力	2-3間をショート	CN3G

JP1Gは、WM8805_G基板の入力として、同軸入力を使うか、光入力などのデジタル入力を使うかを選択するためのジャンパです。同軸入力のときはCN1G、光入力のときはCN3Gに入力を接続してください。

(2) ハードウェアモード/ソフトウェアモードの設定(SW/_HW)

動作モード	設定
ソフトウェアモード	1-2間をショート(H)
ハードウェアモード	2-3間をショート(L)

SW/_HWジャンパは、WM8805の動作設定をハードウェア(ジャンパ設定)で行うか、ソフトウェアで行うかを選択するためのジャンパです。
ハードウェアモードで使うときは、2-3間にショートピンを差します。

(3) マスタモード/スレーブモードの設定(M/_S)

動作モード	設定
マスタモード	1-2間をショート(H)
スレーブモード	2-3間をショート(L)

M/_Sジャンパで、ハードウェアモード時に、WM8805をマスタモード(サンプリングとビットクロックは出力)で動作させるか、スレーブモード(サンプリングとビットクロックは入力)で動作させるかを選択します。

(4) オーディオシリアルデータ形式の設定(FMT)

フォーマット設定	FMT1	FMT0
16ビット I2S	2-3間をショート(L)	2-3間をショート(L)
24ビット I2S	2-3間をショート(L)	1-2間をショート(H)
24ビット左寄せ	1-2間をショート(H)	2-3間をショート(L)
16ビット右寄せ	1-2間をショート(H)	1-2間をショート(H)

使用するオーディオシリアル信号のフォーマットに合わせて、FMT1、FMT0ジャンパを設定します。
オーディオシリアル信号のフォーマットは、接続相手のICに合わせてください。

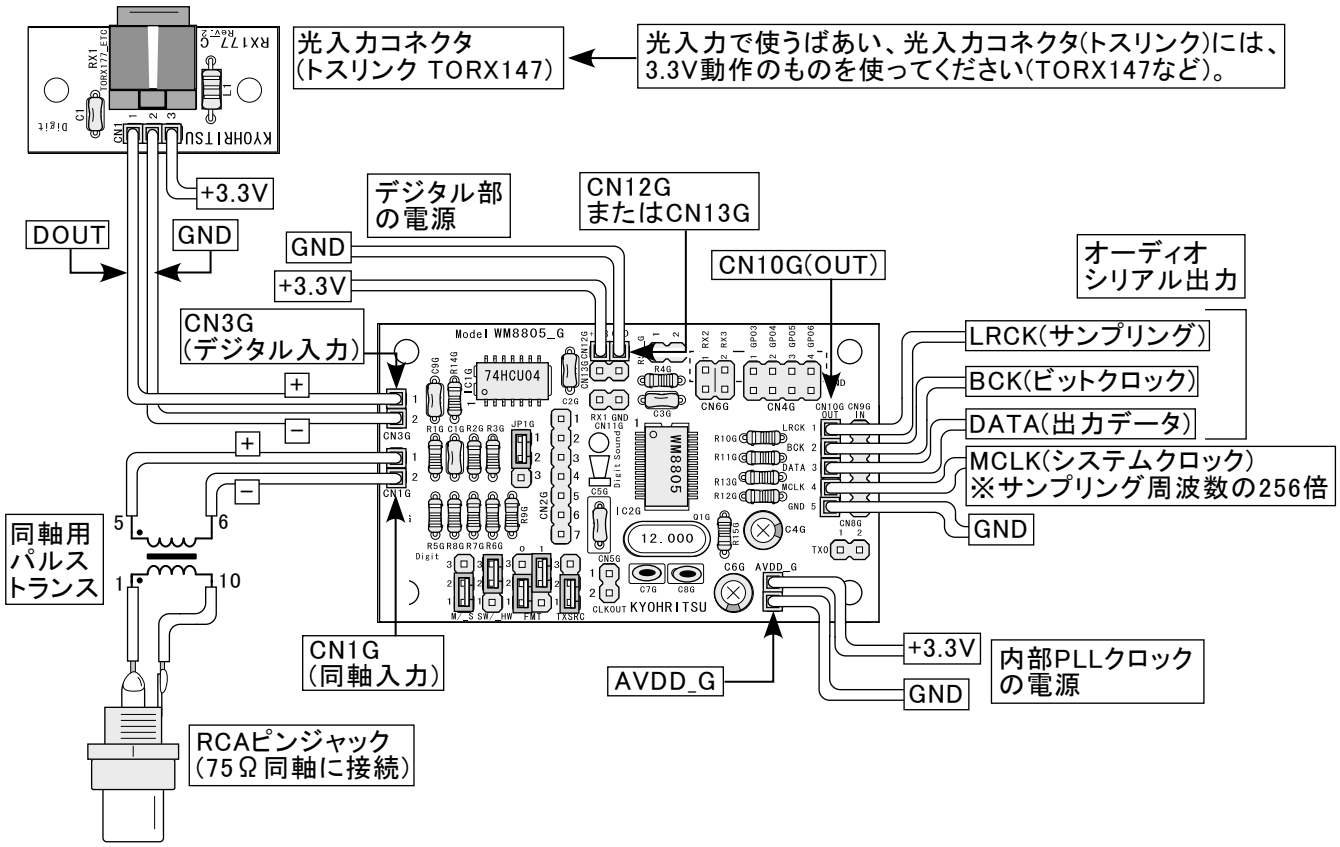
(5) 送信部入力選択(TXSRC)

送信データ元	設定
オーディオシリアル入力	1-2間をショート(H)
S/PDIF受信信号	2-3間をショート(L)

WM8805_G基板をDAIトランスミッタとして使うときの、送信データ元を設定します。詳細については、WM8805のデータシートを見てください。
WM8805_G基板をDAIレシーバとして使うときは、どちらの設定でもかまいません。

基本的な接続のしかたについては、次のページを見てください。

DAIレシーバとして使うときの接続のしかた
(ハードウェアモード)



WM8805_G基板をハードウェアモードで使うときの、電源と信号入出力のコネクタのピンアサインは、下の表の通りです。

CN1G(同軸レベル入力)

	信号名	概要
1	IN1	同軸入力(+側) ※入力アンプ内蔵
2	GND	同軸入力(-側)

※JP1Gの1-2番ピン間をショートしてください。

CN3G(光入力などのデジタル入力)

	信号名	概要
1	IN2	デジタル(ロジック)入力(+側)
2	GND	デジタル(ロジック)入力(-側)

※JP1Gの2-3番ピン間をショートしてください。

CN10G(オーディオシリアル信号出力)

	信号名	概要
1	LRCK	サンプリングクロック
2	BCK	ビットクロック
3	DOUT	出力データ
4	MCLK	システムクロック(256×fs)
5	GND	グラウンド

LRCK(サンプリング)とBCK(ビットクロック)は、マスタモードのとき出力、スレーブモードのときは入力になります。
MCLK(システムクロック)はLRCK(サンプリング)の256倍の周波数です。

CN9G(オーディオシリアル信号入力)

	信号名	概要
1	LRCK	サンプリングクロック
2	BCK	ビットクロック
3	DIN	入力データ
4	MCLK	システムクロック(256×fs)
5	GND	グラウンド

CN8G(S/PDIF信号出力)

	信号名	概要
1	TX0	S/PDIF信号出力
2	GND	グラウンド

WM8805_G基板をDAIトランスミッタとして使うときの詳細については、WM8805のデータシートを見てください。

CN12G、CN13G(デジタル部電源入力)

	信号名	概要
+3.3V	+3.3V	デジタル部電源(3.3V)
GND	GND	グラウンド

※CN12G、CN13Gのピンアサインは同じです。どちらを使ってもかまいません。

AVDD_G(内部PLLクロックの電源入力)

	信号名	概要
+3.3V	AVDD	PLLクロック部電源(3.3V)
GND	GND	グラウンド

2. ソフトウェアモードのとき

WM8805_G基板をソフトウェアモードで使うときの詳細については、WM8805のデータシートを見てください。ここではジャンパ設定と基本的な接続のしかたについて簡単に説明します。

(1) 入力の切り替え(JP1G)

入力選択	設定	入力コネクタ
同軸入力(アンプ内蔵)	1-2間をショート	CN1G
光入力などのデジタル入力	2-3間をショート	CN3G

JP1Gは、WM8805_G基板の入力として、同軸入力を使うか、光入力などのデジタル入力を使うかを選択するためのジャンパです。同軸入力のときはCN1G、光入力のときはCN3Gに入力を接続してください。

(2) ハードウェアモード/ソフトウェアモードの設定(SW/_HW)

動作モード	設定
ソフトウェアモード	1-2間をショート(H)
ハードウェアモード	2-3間をショート(L)

SW/_HWジャンパは、WM8805の動作設定をハードウェア(ジャンパ設定)で行うか、ソフトウェアで行うかを選択するためのジャンパです。
ソフトウェアモードで使うときは、1-2間にショートピンを差します。

(3) I2Cモード/SPIモードの設定(FMT1)

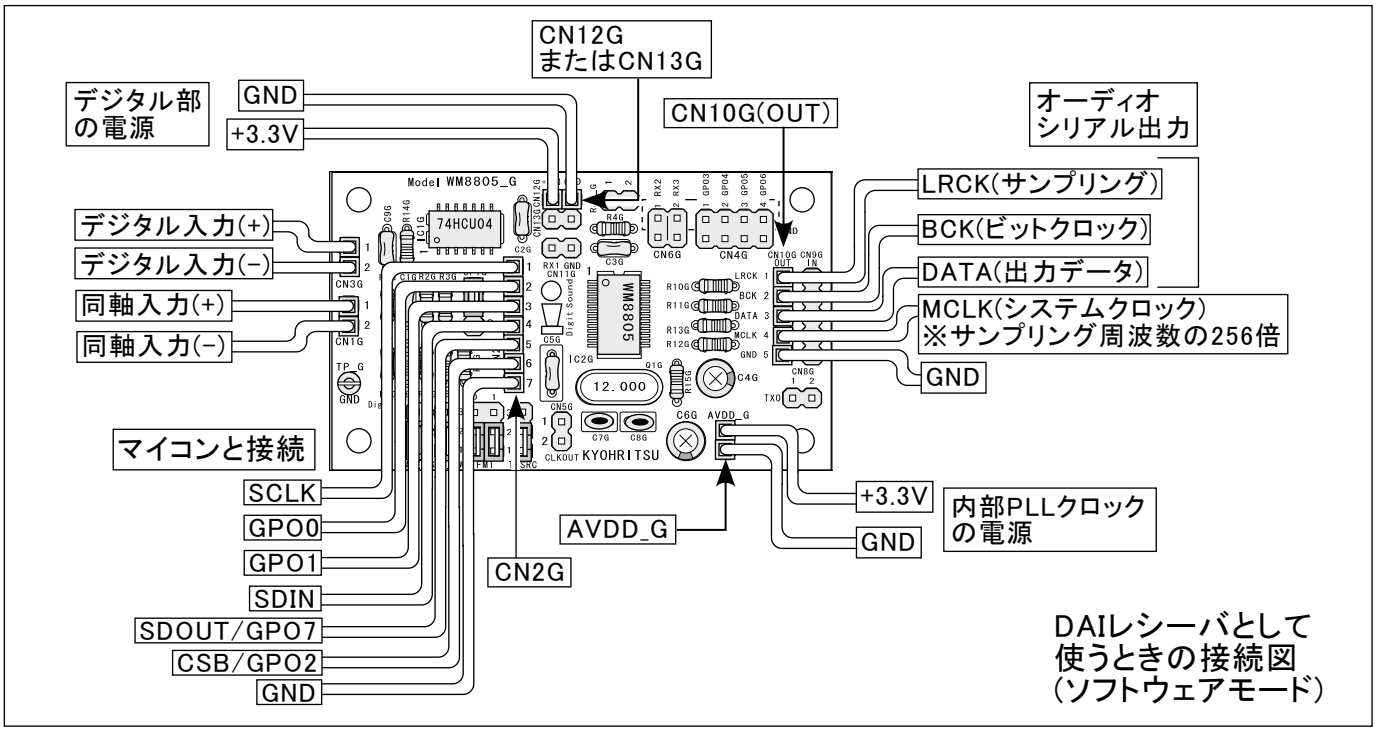
動作モード	設定
SPIモード	1-2間をショート(H)
I2Cモード	2-3間をショート(L)

WM8805基板上のFMT1ジャンパで、ソフトウェアモード時にSPIモードで通信するか、I2Cモードで通信するかを設定します。

(4) I2Cモード時デバイスアドレスの設定(TXSRC)

デバイスアドレス	設定
0111011x	1-2間をショート(H)
0111010x	2-3間をショート(L)

WM8805基板上のTXSRCジャンパで、I2Cモード時のデバイスアドレスを設定します。詳細についてはWM8805のデータシートを見てください。



DAIレシーバとして使うときの接続図(ソフトウェアモード)

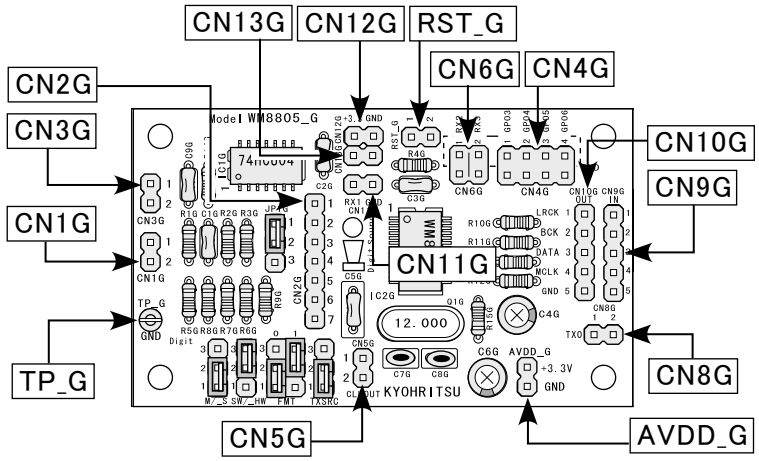
オーディオ関係の入出力信号のピンアサインは、ハードウェアモードのときと同じです。この説明書の6ページを見てください。ソフトウェアモード時のCN2Gのピンアサインは、SPIモードのときとI2Cモードのときで変わります。詳しくはWM8805のデータシートを見てください。

CN2Gのピンアサイン(ソフトウェアモードのとき)

	信号名	概要(SPIモード)	概要(I2Cモード)
1	SCLK	制御データ転送用クロック	制御データ転送用クロック(SCK)
2	GPO0	汎用出力0	汎用出力0
3	GPO1	汎用出力1	汎用出力1
4	SDIN	制御データ入力	制御データ入出力(SDA)
5	SDOUT	制御データ出力	汎用出力7
6	CSB	チップセレクト入力(「L」アクティブ)	汎用出力2
7	GND	グラウンド	グラウンド

資料篇

コネクタのピンアサイン



※TP_Gはチェック用グラウンド端子です。

WM8805_G DAIトランシーバ基板上のコネクタは、左図の場所にあります。

S/PDIF入力関係
CN1G(同軸入力)

	信号名	概要
1	IN1	同軸入力(+側) ※入力アンプ内蔵
2	GND	同軸入力(-側)

※CN1Gを入力として使うときは、JP1Gの1-2番ピン間をショートしてください。

CN3G(光コネクタ(トスリンク)などデジタル入力)

	信号名	概要
1	IN2	デジタル(ロジック)入力(+側)
2	GND	デジタル(ロジック)入力(-側)

※CN3Gを入力として使うときは、JP1Gの2-3番ピン間をショートしてください。

S/PDIF入力関係(ソフトウェアモード専用)
CN4G(デジタル入力または汎用出力)

	信号名	概要	備考
1	RX4/GPO3	S/PDIF信号入力4	汎用出力3としても使用可
2	RX5/GPO4	S/PDIF信号入力5	汎用出力4としても使用可
3	RX6/GPO5	S/PDIF信号入力6	汎用出力5としても使用可
4	RX7/GPO6	S/PDIF信号入力7	汎用出力6としても使用可

CN4GのS/PDIF信号入力ピンは、ソフトウェアで設定することで、汎用出力としても使えます。詳しくはWM8805のデータシートを見てください。

CN6G(デジタル入力)

	信号名	概要
1	RX2	S/PDIF信号入力 2
2	RX3	S/PDIF信号入力 3

CN11G(デジタル入力)

	信号名	概要
1	RX1	S/PDIF信号入力 1
2	GND	グラウンド

CN4G、CN6G、CN11GのS/PDIF入力について

CN4G、CN6G、CN11GのS/PDIF入力ピンは、WM8805をソフトウェアモードに設定したときのみ使用可能です。詳しくはWM8805のデータシートを見てください。

ハードウェアモードのときは何も接続しないで使います。

オーディオシリアル信号入出力関係
CN9G(オーディオシリアル信号入力)

	信号名	概要
1	LRCK	サンプリングクロック
2	BCK	ビットクロック
3	DIN	入力データ
4	MCLK	システムクロック(256×fs)
5	GND	グラウンド

CN10G(オーディオシリアル信号出力)

	信号名	概要
1	LRCK	サンプリングクロック
2	BCK	ビットクロック
3	DOUT	出力データ
4	MCLK	システムクロック(256×fs)
5	GND	グラウンド

※LRCK(サンプリングクロック)、BCK(ビットクロック)、MCLK(システムクロック)は、WM8805をマスタモードで使うときは出力、スレーブモードで使うときは入力になります。詳しくはデータシートを見てください。

S/PDIF信号出力関係
CN8G

	信号名	概要
1	TX0	S/PDIF信号出力
2	GND	グラウンド

リセット関係
RST_G

	信号名	概要
1	RESETB	WM8805リセット(「L」でリセット)
2	GND	グラウンド

エラー情報表示(ハードウェアモード時)
CN2G

ピン番号	信号名	概要
1	TRANS_ERR	S/PDIF受信エラー
2	GEN_FLAG	エラー発生
5	NON_AUDIO	オーディオデータでない
6	UNLOCK	PLLロックエラー

CN2GにはLEDは直接接続できません(設定が正しく行えません)。ロジックICでバッファしてください。

ハードウェアモードのときのエラー情報表示の詳細については、WM8805のデータシートを見てください。

制御信号(ソフトウェアモード時)関係
CN2G

	信号名	概要(SPIモード)	概要(I2Cモード)
1	SCLK	制御データ転送用クロック	制御データ転送用クロック(SCK)
2	GPO0	汎用出力0	汎用出力0
3	GPO1	汎用出力1	汎用出力1
4	SDIN	制御データ入力	制御データ入出力(SDA)
5	SDOUT	制御データ出力	汎用出力7
6	CSB	チップセレクト入力(「L」アクティブ)	汎用出力2
7	GND	グラウンド	グラウンド

電源関係
CN12G、CN13G

	信号名	概要
+3.3V	+3.3V	デジタル部電源(3.3V)
GND	GND	グラウンド

AVDD_G

	信号名	概要
+3.3V	AVDD	PLLクロック部電源(3.3V)
GND	GND	グラウンド

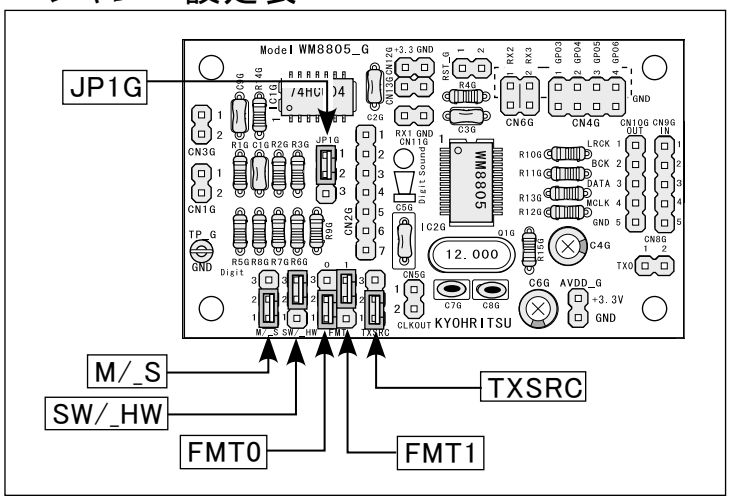
CN12G、CN13Gのピンアサインは同じです。どちらをお使いになってもかまいません。

クロック出力
CN5G

	信号名	概要
1	CLKOUT	クロック出力(12MHz)
2	GND	グラウンド

WM8805をソフトウェアモードにしたときは、設定により12MHz以外の周波数のクロックも出せます。詳しくはWM8805のデータシートを見てください。

ジャンパ設定表



WM8805_G DAIトランシーバ基板の設定用ジャンパは、左図の場所にあります。

※入力切り替えジャンパ(JP1G)以外の設定ジャンパを変更した場合は、電源を入れなおすか、リセットをかけて設定を反映させてください。

WM8805_G基板上の動作設定用ジャンパは、1-2間にショートピンを差したとき「H(1)」に、2-3間にショートピンを差したとき「L(0)」になります。

入力選択関係
JP1G

設定	入力選択	備考
1-2間をショート	CN1G	同軸入力(アンプ内蔵)
2-3間をショート	CN3G	光入力などのデジタル入力

ハードウェアモード/ソフトウェアモード選択
SW/_HW

設定	動作モード
1-2間をショート(H)	ソフトウェアモード
2-3間をショート(L)	ハードウェアモード

(1) ハードウェアモードのとき

マスタ/スレーブ選択
M/_S

設定	動作モード
1-2間をショート(H)	マスタモード
2-3間をショート(L)	スレーブモード

送信部データ入力選択
TXSRC

設定	送信データ入力選択
1-2間をショート(H)	オーディオシリアル入力
2-3間をショート(L)	S/PDIF受信信号

オーディオシリアル信号フォーマット選択
FMT1、FMT0

FMT1	FMT0	フォーマット設定
2-3間をショート(L)	2-3間をショート(L)	16ビット I2S
2-3間をショート(L)	1-2間をショート(H)	24ビット I2S
1-2間をショート(H)	2-3間をショート(L)	24ビット左寄せ
1-2間をショート(H)	1-2間をショート(H)	16ビット右寄せ

(2) ソフトウェアモードのとき

制御モード選択
FMT1

設定	動作モード
1-2間をショート(H)	SPIモード
2-3間をショート(L)	I2Cモード

デバイスアドレス設定
TXSRC

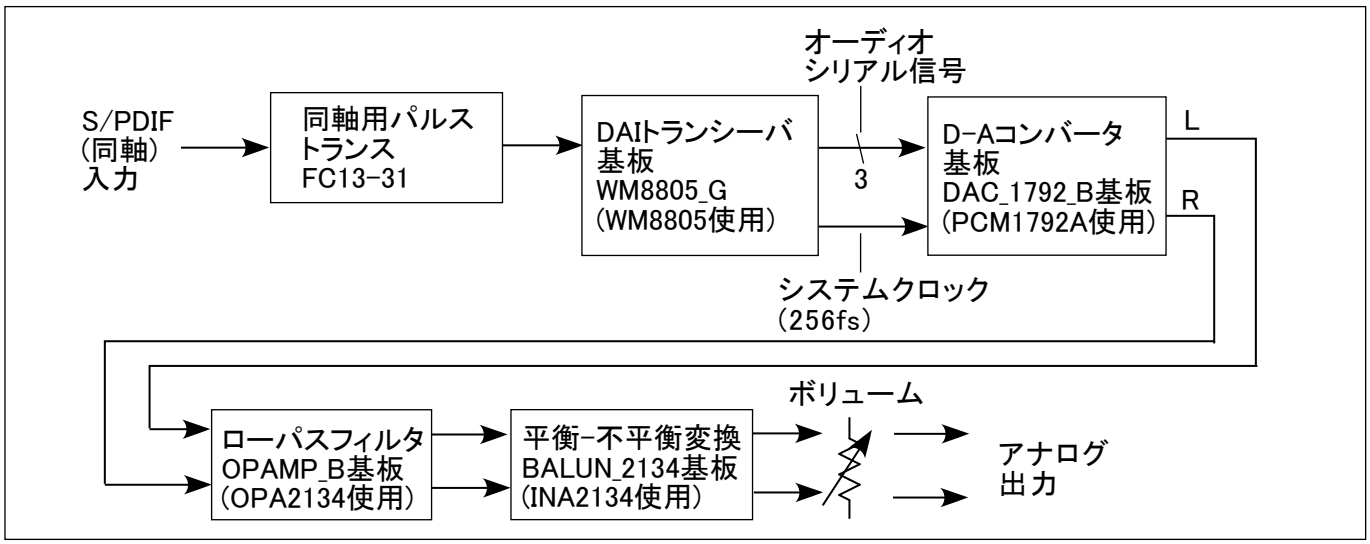
設定	デバイスアドレス
1-2間をショート(H)	0111011x
2-3間をショート(L)	0111010x

※ソフトウェアモードの設定、制御のしかたについては、WM8805のデータシートを見てください。

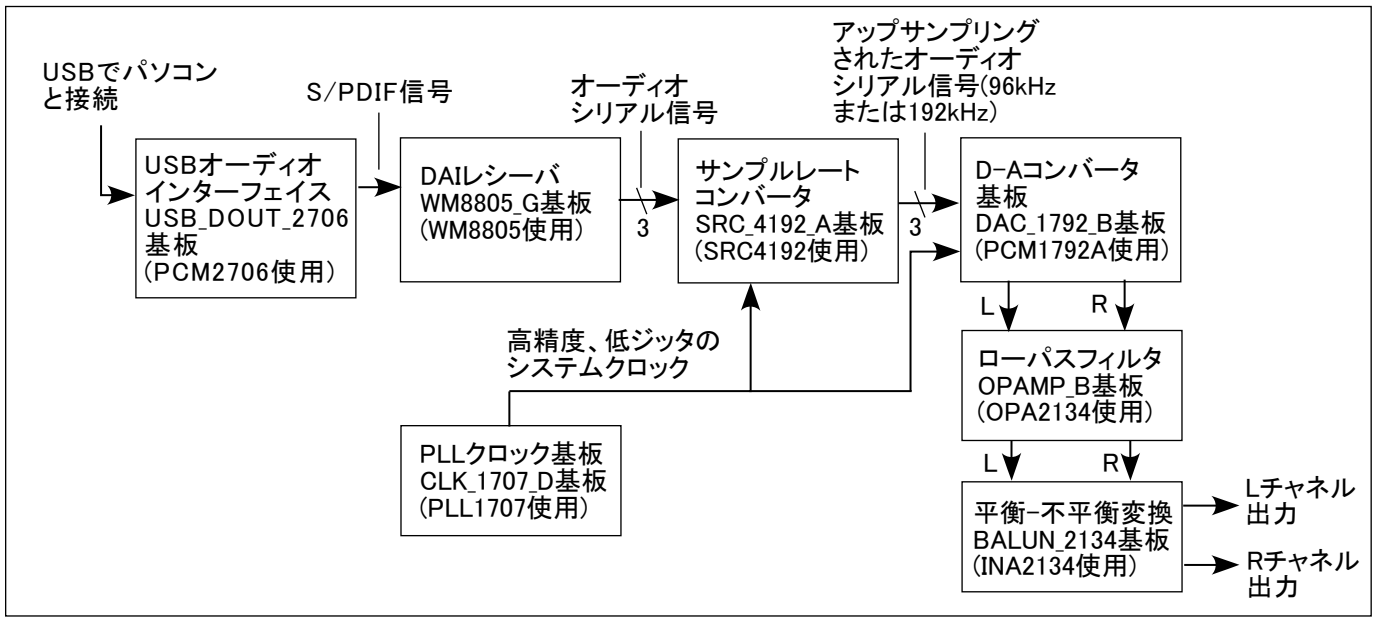
応用例ブロックダイヤグラム

WM8805_G DAIトランシーバ基板の応用例ブロックダイヤグラムです。
各応用例の実際の作り方を説明した、「応用篇」の説明書があります。詳細については「応用篇」の説明書を見てください。

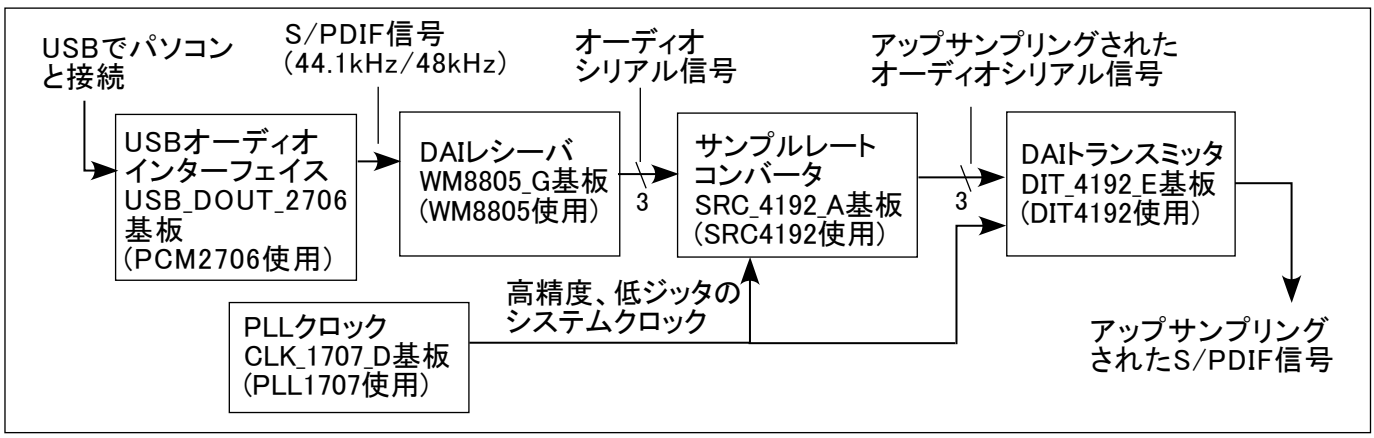
(1) WM8805_G DAIトランシーバ基板と高性能D-Aコンバータ単独基板(DAC_1792_B)を組み合わせた、S/PDIF(同軸)接続のD-Aコンバータの構成例



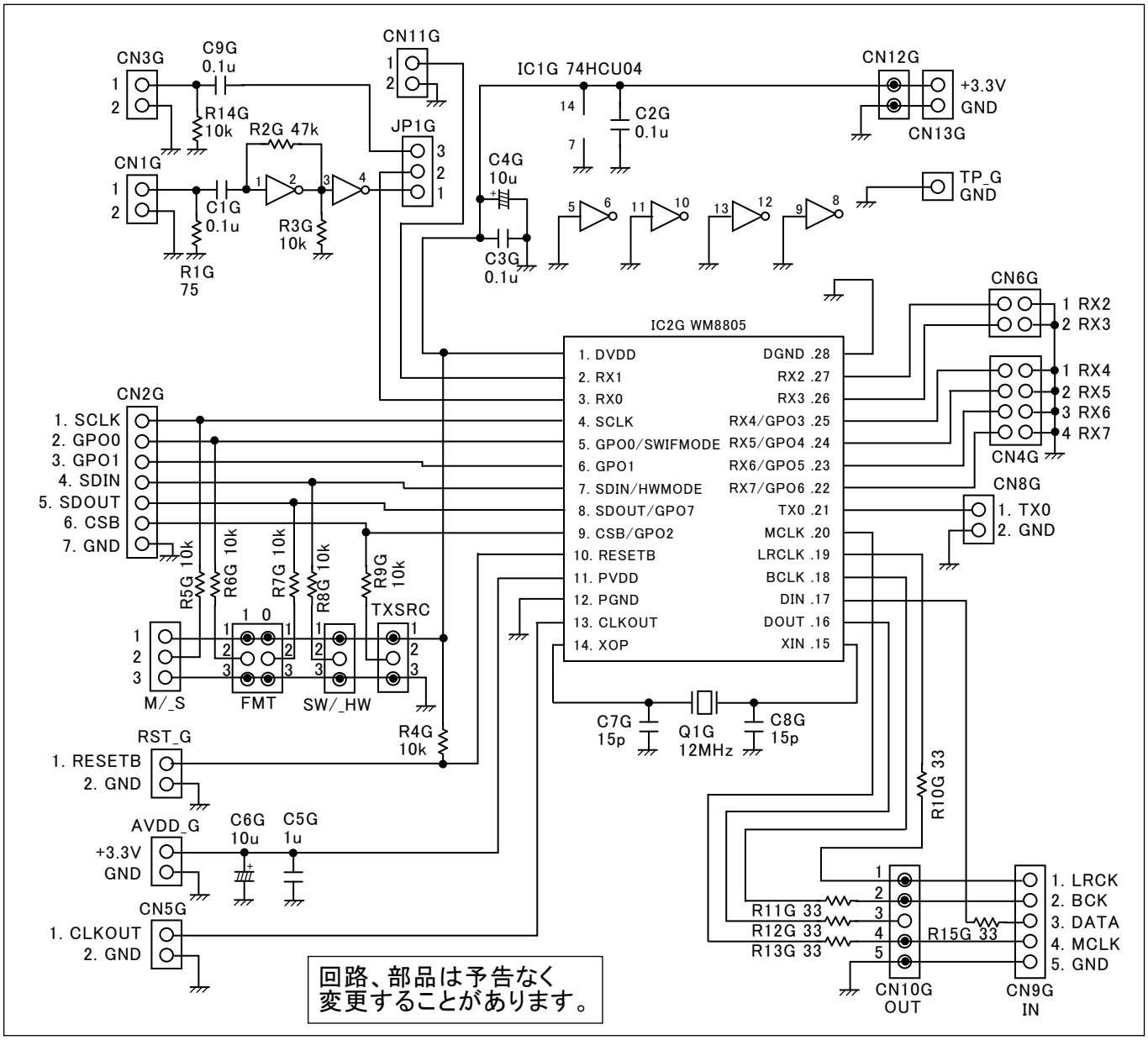
(2) WM8805_G DAIトランシーバ基板とサンプルレートコンバータ基板(SRC_4192_A)を組み合わせた、USB接続のアップサンプリングD-Aコンバータの構成例



(3) WM8805_G DAIトランシーバ基板とサンプルレートコンバータ基板(SRC_4192_A)、DAIトランスミッタ基板(DIT4192_E)を組み合わせた、S/PDIF出力サンプルレートコンバータの構成例



WM8805_G DAIトランシーバ基板 回路図



メモ